

Gamma-ray line from electroweakly interacting non-abelian **spin-1** dark matter

~ガンマ線の単色ピークに注目した 電弱スピン 1 暗黒物質の探索~

藤原素子 (名古屋大学)

共同研究者: 阿部智広 (東京理科大学)

久野純治 (KMI,名古屋大学., Kavli iPMU)

松下康平 (名古屋大学)

参考文献: T. Abe, **MF**, J. Hisano, K. Matsushita, [arXiv:2107.10029]

やったこと

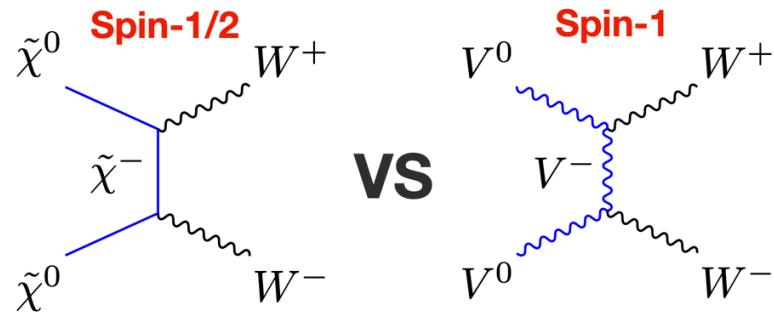
電弱相互作用を持つ **スピニ1** の 暗黒物質について、
対消滅に由来する ガンマ線 単色ピーク の探索可能性を明らかにしました

裏テーマ: 電弱 暗黒物質のスピニの識別

異なるスピニ (**スピニ1/2**)
同じ電弱相互作用 (SU(2)_L 三重項, Y=0)

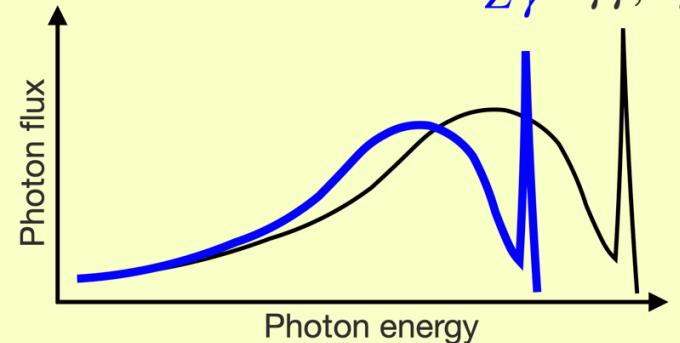
を持つ暗黒物質と予言を比較し、識別可能性を調査

- 定量的識別: 他のスピニの場合より大きな対消滅断面積を予言
- 定性的識別: 特徴的なダブルピークのガンマ線スペクトル



VS

質量スペクトルを
再構築可能！

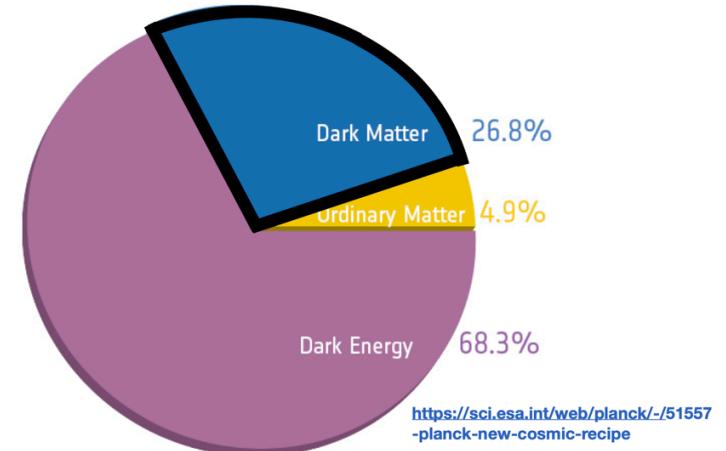


暗黒物質

暗黒物質(DM)とは?

私たちの宇宙の見えない(= dark な)未知の重力源

- 宇宙のエネルギー密度の 1/4 を占める
- 電気的に中性
- 構造形成時に非相対論的
- 安定 or 宇宙年齢に比べて長寿命



DM 候補?

DM の質量・相互作用は膨大な可能性がある

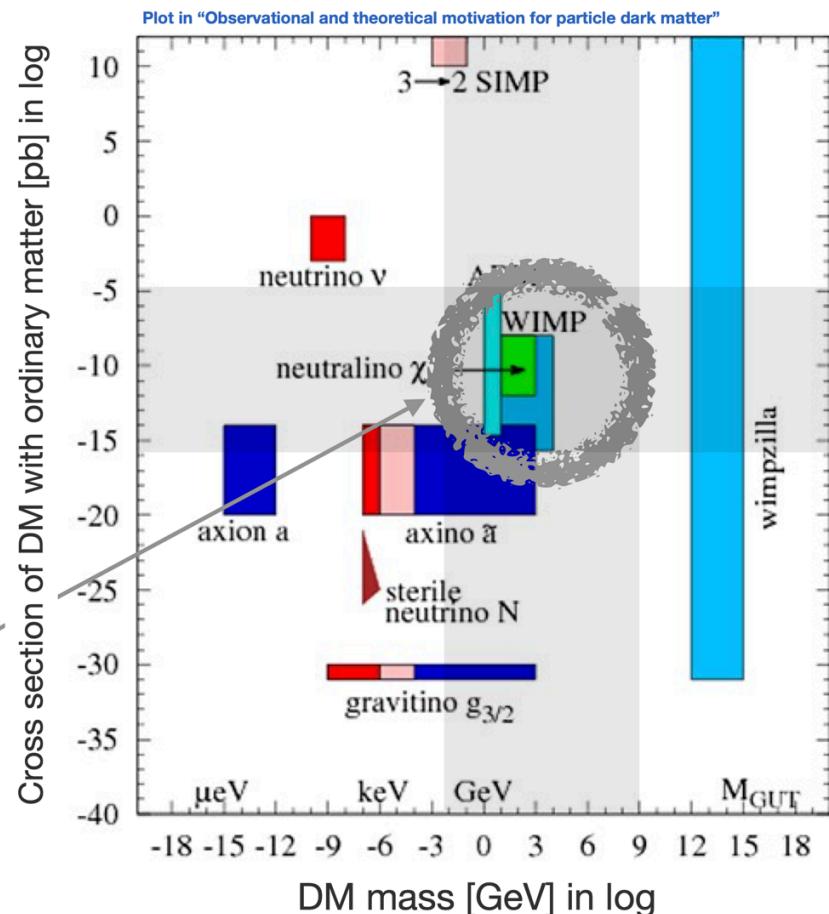
最終目標: **DM の相互作用理論を特定すること**

→ 新物理を探る重要な手がかりになる

DM の特定には、各候補の性質を調べておくことが重要

Weakly Interacting Massive Particle

- 膨張宇宙における消え残りとして DM を説明
- 様々な相互作用過程を実験的に探索可能



■ 電弱相互作用する DM

仮定: $DM = SU(2)_L$ の多重項 (=電弱 DM)

- DM-物質の結合: 電弱相互作用
- DM の質量: $\mathcal{O}(1) \text{ TeV}$ (適切な DM エネルギー密度を説明するため)

→ DM のスピン を決めれば DM の相互作用理論が決定

Table (Partially modified) from [M. Farina, D. Pappadopulo, A. Strumia (2013)]

	Quantum numbers			DM mass	$m_{\pm} - m_{DM}$	
	$SU(2)_L$	$U(1)_Y$	Spin	[TeV]	[MeV]	
Higgsino	2	1/2	0	0.54	350	m_{DM} : DM 質量
	2	1/2	1/2	1.1	341	m_{\pm} : 多重項の電荷を持った成分の質量
Wino	3	0	0	2.5	166	
	3	0	1/2	2.7	166	
	:			:	:	

従来の 電弱 DM の研究はスピン 0, 1/2 に特化される傾向にあった (\because スpin 1 DM の模型構築は工夫が必要)

→ スピン 1 のベクトル粒子が 電弱 DM になるシナリオは可能か?

他のスピンを持つ DM との識別は?

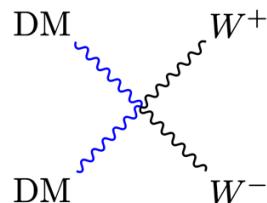
■ スピン1のベクトル DM 理論

余剰次元理論

- 具体的な模型？ 平坦な5次元時空 + 境界への局在項
[T. Flacke, A. Menon, D. J. Phalen (2009)] [T. Flacke, D. W. Kang, K. Kong, G. Mohlabeng, S. C. Park (2017)]
- ベクトル粒子の起源？ 電弱ベクトルの Kaluza-Klein 粒子
- DM の安定性？ y パリティ
- DM の電弱相互作用？ y パリティを保存する電弱相互作用

くりこみ可能な理論

???
???
???
???



- △ くりこみ不可能で予言能力がない
- △ 無限個の粒子が理論に存在し、解析が大変

【動機】

くりこみ可能な理論模型を使って、**スピン1**の電弱 DM の現象論・性質・探索可能性を一般的に、見通し良く明らかにしたい

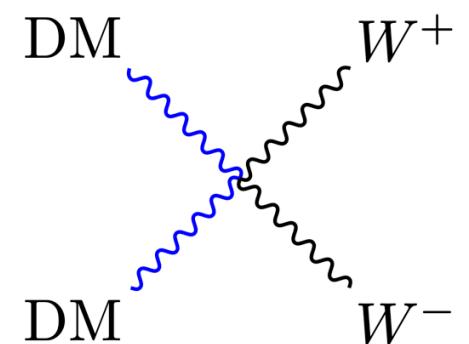
→ 電弱 DM 候補の**スピンの識別可能性**？

直接探索実験・コライダー実験 → PPP2020 松下康平さんのポスター発表
間接探索実験(ガンマ線 単色ピーク) → 今日のトーク、電弱相互作用の性質が鍵を握る

■ 目次

- ✓ ● イントロダクション
- 電弱相互作用するスピン1 DM 模型
- DM 対消滅のガンマ線 単色ピーク探索
~電弱 DM のスピン識別可能性~
- まとめ

電弱相互作用する スピン1 DM 模型



■ スピン1 DM の模型構築

模型構築の方針

- 電弱相互作用を持つDMの物理を調べたい
- 電弱ベクトルの KK-tower だけで十分

	\vdots	\vdots	\vdots	\vdots	\vdots	\vdots
2-mode	$\gamma^{(2)}$	$Z^{(2)}$	$W^{\pm(2)}$	$h^{(2)}$	$f^{(2)}$	$Z_2\text{-even}$
1-mode	$\gamma^{(1)}$	$Z^{(1)}$	$W^{\pm(1)}$	$h^{(1)}$	$f^{(1)}$	$Z_2\text{-odd}$
0-mode	γ	Z	W^\pm	h	f	$Z_2\text{-even}$

→ スペクトルを再現する簡単化した理論模型を考えよう

Deconstructing dimension [N. Arkani-Hamed, A. G. Cohen, H. Georgi (2001)]

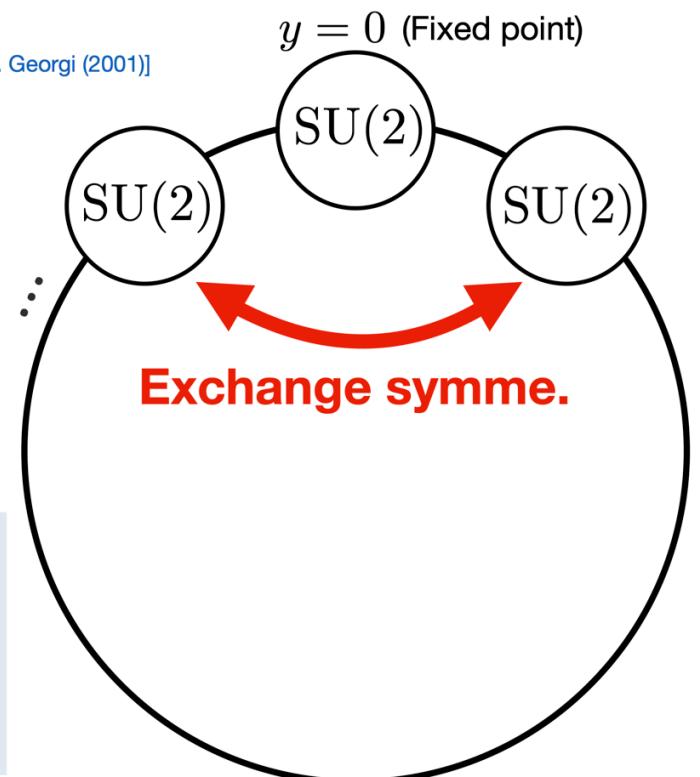
- 余剰次元理論の質量スペクトルを
くりこみ可能な4次元理論の設定で実現する手法

特に、 $SU(2)_L$ セクターの $\begin{cases} \cdot \text{KK-tower} \\ \cdot Z_2\text{-parity} \end{cases}$ を再現したい



$SU(2)$ の直積 + ゲージ群の入れ替え対称性

ミニマルなセットアップ: $SU(2)_0 \times SU(2)_1 \times SU(2)_2$



模型

[T. Abe, MF, J. Hisano, K. Matsushita (2020)]

対称性

$$SU(3)_c \otimes SU(2)_0 \otimes SU(2)_1 \otimes SU(2)_2 \otimes U(1)_Y \quad (4\text{次元時空の理論})$$

Exchange Symme.

物質場

		$W_{0\mu}^a$	$W_{1\mu}^a$	$W_{2\mu}^a$		
field	spin	$SU(3)_c$	$SU(2)_0$	$SU(2)_1$	$SU(2)_2$	$U(1)_Y$
q_L	$\frac{1}{2}$	3	1	2	1	$\frac{1}{6}$
u_R	$\frac{1}{2}$	3	1	1	1	$\frac{2}{3}$
d_R	$\frac{1}{2}$	3	1	1	1	$-\frac{1}{3}$
ℓ_L	$\frac{1}{2}$	1	1	2	1	$-\frac{1}{2}$
e_R	$\frac{1}{2}$	1	1	1	1	-1
Φ_1	0	1	2	2	1	0
Φ_2	0	1	1	2	2	0
H	0	1	1	2	1	$\frac{1}{2}$

対称性の破れ

$$[SU(2)]^3 \otimes U(1)_Y \xrightarrow{\langle \Phi_j \rangle \neq 0} SU(2) \otimes U(1)_Y \xrightarrow{\langle H \rangle \neq 0} U(1)_{\text{em}}$$

$\underbrace{\hspace{10em}}_{SU(2)_L}$

- 各フェルミオンは標準模型フェルミオンに対応
- $U(1)_{\text{em}}$ に破るために スカラー場を導入

$$\Phi_j = \mathbf{1}\sigma_j + \tau^a \pi_j^a \quad \begin{cases} \text{実条件: } \Phi_j = -\epsilon \Phi_j^* \epsilon \\ (j=1, 2) \end{cases}$$

$$H = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} i\pi^1 - \pi^2 \\ \sigma - i\pi^3 \end{pmatrix} \quad \text{実自由度4つずつ}$$

- 対称性変換

- ゲージ変換 (スカラー場)
- 入れ替え変換

$$\begin{cases} \Phi_1 \mapsto U_0 \Phi_1 U_1^\dagger \\ \Phi_2 \mapsto U_2 \Phi_2 U_1^\dagger \\ H \mapsto U_1 H \end{cases}$$

$\Phi_1 \leftrightarrow \Phi_2, \quad W_{0\mu}^a \leftrightarrow W_{2\mu}^a$

* $g_0 = g_2$ ($\neq g_1$)

$$U_n = \exp[i\theta_n(x)] \quad (n = 0, 1, 2)$$

- 真空間期待値

$$\langle \Phi_1 \rangle = \langle \Phi_2 \rangle = \frac{1}{\sqrt{2}} \begin{pmatrix} v_\Phi & 0 \\ 0 & v_\Phi \end{pmatrix}$$

$$\langle H \rangle = \begin{pmatrix} 0 \\ \frac{v}{\sqrt{2}} \end{pmatrix} \quad \begin{matrix} (v_\Phi \gg v) \\ \uparrow \\ \mathcal{O}(1) \text{ TeV} \end{matrix} \quad \begin{matrix} \uparrow \\ \mathcal{O}(100) \text{ GeV} \end{matrix}$$

Z₂-odd なベクトル三重項

$$\Phi_j = \begin{pmatrix} \frac{v_\Phi + \sigma_j + i\pi_j^0}{\sqrt{2}} & i\pi_j^+ \\ i\pi_j^- & \frac{v_\Phi + \sigma_j - i\pi_j^0}{\sqrt{2}} \end{pmatrix}$$

$$W_{n\mu}^\pm = \frac{W_{n\mu}^1 \mp iW_{n\mu}^2}{\sqrt{2}} \quad (n = 0, 2)$$

Z₂-odd の粒子

$$h_D = \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{\sqrt{2}} \quad (\text{neutral scalar})$$

$$V^0 = \frac{W_{0\mu}^3 - W_{2\mu}^3}{\sqrt{2}} \quad (\text{neutral vector})$$

$$V^\pm = \frac{W_{0\mu}^\pm - W_{2\mu}^\pm}{\sqrt{2}} \quad (\text{charged vector})$$

SSB後の入れ替え変換: $\sigma_1 \leftrightarrow \sigma_2, \quad W_{0\mu}^a \leftrightarrow W_{2\mu}^a$

反対称に組むと、自動的に Z₂-odd な物理的状態が組める

“V-particles”

電弱ボソンの 1st KK 粒子に相当

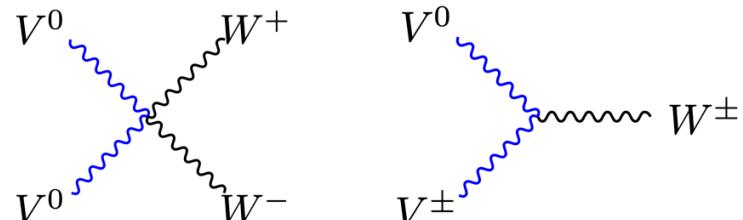
→ SU(2)_L 三重項の性質を持つ

V-particle の性質

- 非可換ベクトルの 電弱結合を持つ
→ 電弱相互作用が物理を司る
- 質量スペクトル
 - Tree-level: $m_{V^0}^2 = m_{V^\pm}^2 = \frac{g_0^2 v_\Phi^2}{4} \quad (\equiv m_V^2)$
 - Loop-level: $\delta m \equiv m_{V^\pm} - m_{V^0} \simeq 168 \text{ MeV}$ (SU(2)_L 三重項、Y=0 の スピン1/2 のDMとほぼ同じ値)

$m_V < m_{h_D}$ を仮定すれば、 V^0 が最も軽い **Z₂-odd** 粒子になる

= 電弱相互作用するスピン 1 の DM 候補



■ スペクトル

	Vector	Scalar	Z_2 parity	Mass
2nd KK	Z' W'^{\pm}	h'	even	$\sim v_\Phi \quad \mathcal{O}(1) \text{ TeV}$
1st KK	V^0 V^\pm	h_D	odd	
0-mode	Z W^\pm γ	h	even even	$\sim v \quad \mathcal{O}(100) \text{ GeV}$ massless

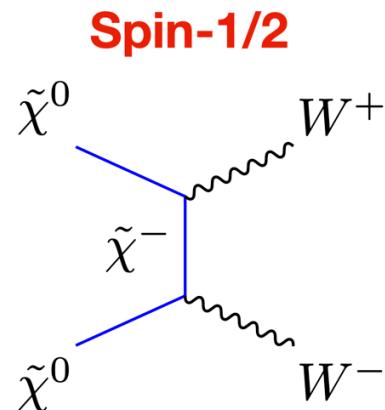
- 余剰次元理論の { **0-mode**, **1st-KK mode**, **2nd-KK mode** } に相当するスペクトルを再現
 $\rightarrow Z_2\text{-even}$ な BSM ベクトル (Z', W') も存在
- 標準模型 極限: $v_\Phi \rightarrow \infty$
- フェルミオンセクターは標準模型と同じ
 $(\because$ フェルミオンは入れ替えられる $SU(2)$ 対称性とは関係ない $)$

$$\mathcal{L} \supset -y_u \bar{q}_L \tilde{H} u_R - y_d \bar{q}_L H d_R - y_e \bar{\ell}_L H e_R + h.c. \quad \left[\begin{array}{l} \tilde{H} = \epsilon H^* \quad \epsilon = \begin{pmatrix} 0 & 1 \\ -1 & 0 \end{pmatrix}. \end{array} \right]$$

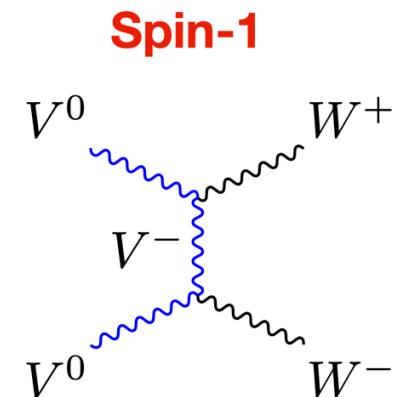
$SU(2)_0 \otimes SU(2)_1 \otimes SU(2)_2$


DM 対消滅の ガンマ線 単色ピーク探索

~電弱 DM のスピン識別可能性~



VS



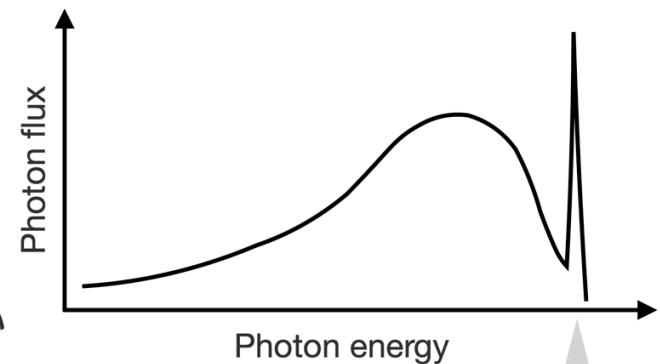
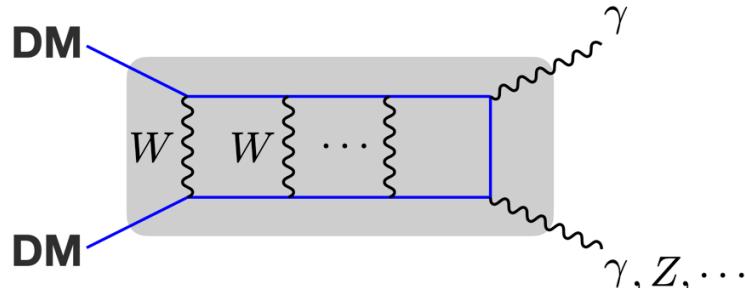
■ ガンマ線 単色ピーク探索

スピンの情報を実験・観測結果からどう引き出すか？

非相対論的極限でスピン依存性は散乱事象から decouple する傾向にあるため工夫が必要
(cf. momentum or velocity suppression, $\langle v \rangle/c \simeq 10^{-3}$)

DM DM → Xγ：「光子をひとつ以上含む」粒子対への対消滅過程

- ガンマ線スペクトルに単色的なピークが観測される
 - 他の天体由来のノイズと識別が容易に可能
 - ピークの位置から DM 質量が再構築可能
- DM は電気的に中性のため、光子に直接結合できない
 - 素朴には 1-loop の抑制あり
- **Sommerfeld 効果** (→次のページ)



$$E_\gamma \simeq m_{\text{DM}} \left(1 - \frac{m_X^2}{4m_{\text{DM}}^2} \right)$$

for $m_X \ll m_{\text{DM}}$ $\longrightarrow E_\gamma \simeq m_{\text{DM}}$

Sommerfeld 効果

DM 対消滅断面積

$$\langle \sigma v_{\text{rel}} \rangle_{XX'} = 2 \sum_{\alpha, \beta} \sum_{J, J_z} (\Gamma_{XX'}^J)_{\alpha \beta} d_{2\alpha}(E) d_{2\beta}^*(E)$$

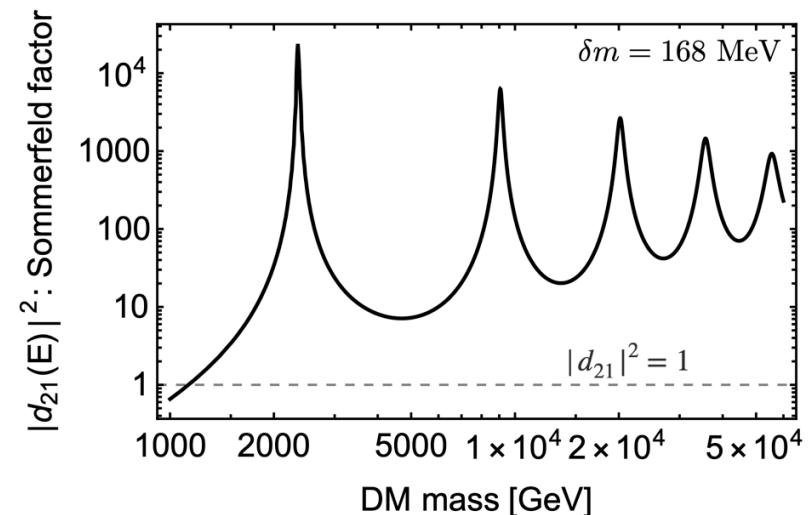
$(\alpha, \beta = 1, 2) \quad E \simeq \frac{mv_{\text{rel}}^2}{4}$: NR kinetic energy

Sommerfeld 因子

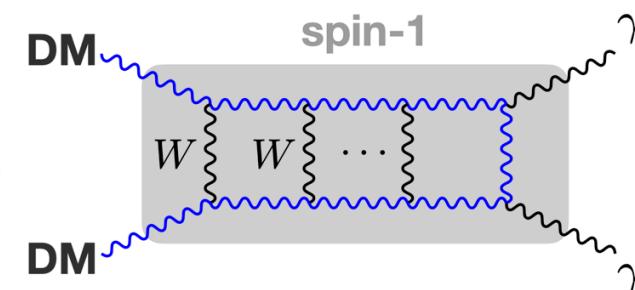
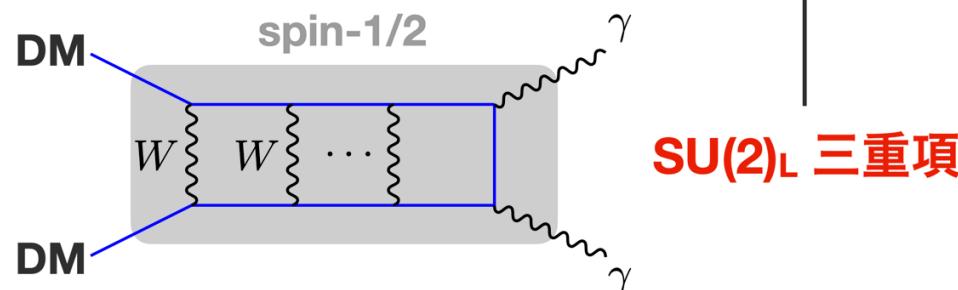
$$m_W \ll m_{\text{DM}}$$

- DM 間の(有効的な)長距離力相互作用による波動関数の歪みを表す因子
- DM 多重項 二体の Schrödinger eq. を数値的に評価
- 対消滅断面積が共鳴質量の付近で増幅
→ 光子への対消滅も抑制されずに起こる
- 共鳴を決めるのは

$\left\{ \begin{array}{l} \text{二体ポテンシャルの実部} \\ \text{質量差 } \delta m \end{array} \right.$



共鳴構造にスピンの違いは現れない



■ Spin-1/2 vs Spin-1 (1/3)

DM 対消滅のスピン選択則

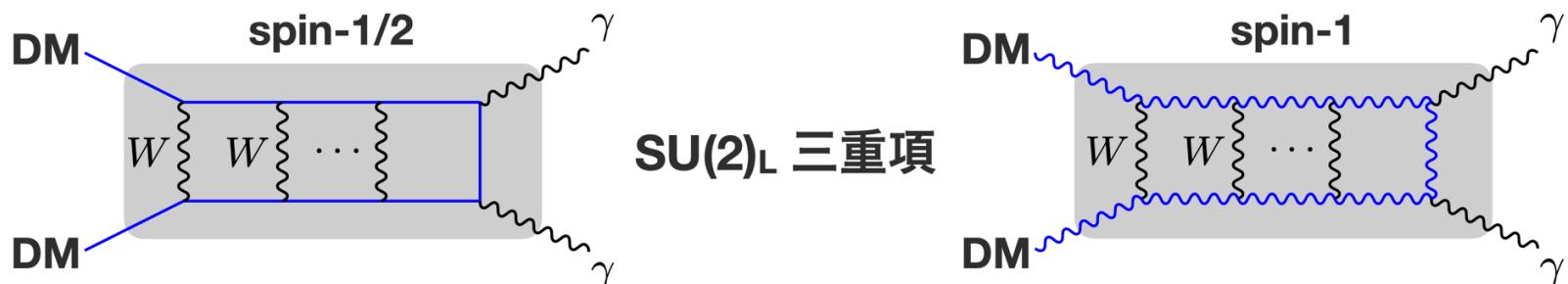
非相対論的

- 始状態 DM の非相対論的極限で、leading order の効果に注目
 - ポテンシャルは球対称 (\Leftrightarrow 軌道角運動量は保存)
 - スピンを変えうる相互作用は運動量と結合しているため落ちる

→ スピン角運動量が対消滅の前後で保存

→ 始状態 DM 対 のスピンの情報を終状態が覚えている！

対消滅断面積にはどんな影響があるか？(→次のページ)



Spin-1/2 vs Spin-1 (2/3)

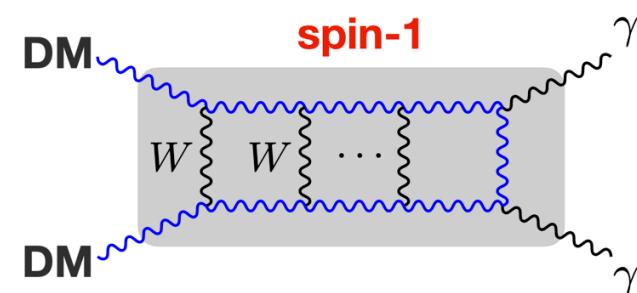
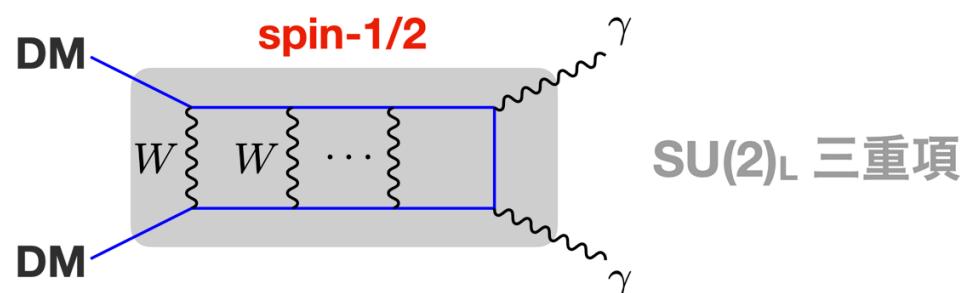
粒子の入れ替えで S: 対称
A: 反対称

DM 二体状態の分類

スピン1 DM の場合は $J = 2$ の状態が組める → 対消滅断面積も優位に大きいと期待

構成要素: $\chi^0 \chi^0$ (spin-1/2, 同種粒子) $V^0 V^0$ (spin-1, 同種粒子)

統計性: Fermi 粒子 Bose 粒子



Spin-1/2 vs Spin-1 (3/3)

比較 (Leading order)

- SU(2)_L の性質由来の共鳴構造はほぼ同じ
- スピン1の DM 対は $J = 2$ の状態を組める

$\times \frac{38}{9} (\simeq 4.22\ldots)$ の増大！

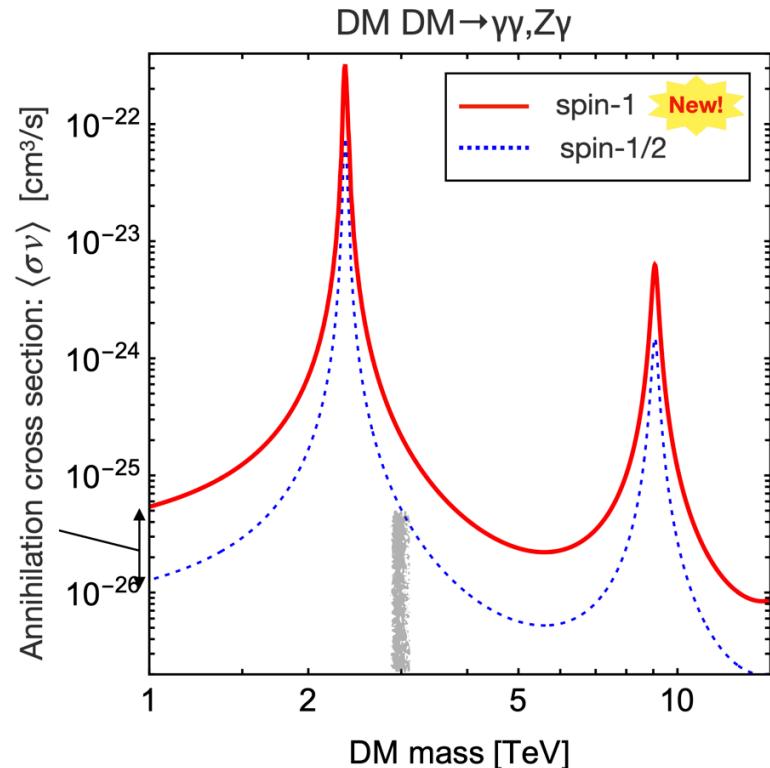
高次補正の影響

- EW Sudakov resummation $\ln \frac{m_{\text{DM}}}{m_W} \times \ln \frac{m_{\text{DM}}}{E_\gamma^{\text{res}}}$
- ポテンシャル NLO 補正→共鳴質量をシフトしうる
 - Wino DM に関してはすでに体系的な研究あり
 - スピン1の電弱 DM においても不定性が存在 (future work)

DM 質量の予言値

- Pure Wino DM: 2.22 TeV $\xrightarrow{\text{Sommerfeld}}$ 2.88 TeV [M. Beneke, A. Bharucha, et. al (2016)]
- EW Spin-1 DM: 3 TeV 以上 $\xrightarrow{\text{Sommerfeld}}$??? (現在解析中)

↑ヒッグスセクターのパラメータなどにも依存



Study of the Wino DM

Potential LO: [J.Hisano, S. Matsumoto, M. M. Nojiri, O. Saito (2005)]

Sudakov log: [T. Choen, M. Lisanti, A. Pierce, T. R. Slatyer (2013)]

[G. Ovanesyan, T. R. Slatyer, I. W. Stewart (2014)]

[G. Ovanesyan, N. L. Rodd, T. R. Slatyer, I. W. Stewart (2017)]

[M. Beneke, A. Broggio, C. Hasner, M. Vollmann (2018)]

[M. Beneke, A. Broggio, C. Hasner, K. Urban, M. Vollmann (2019)]

Potential NLO: [M. Beneke, R. Szafron, K. Urban (2020)]

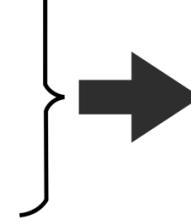
さらなる決定打は？

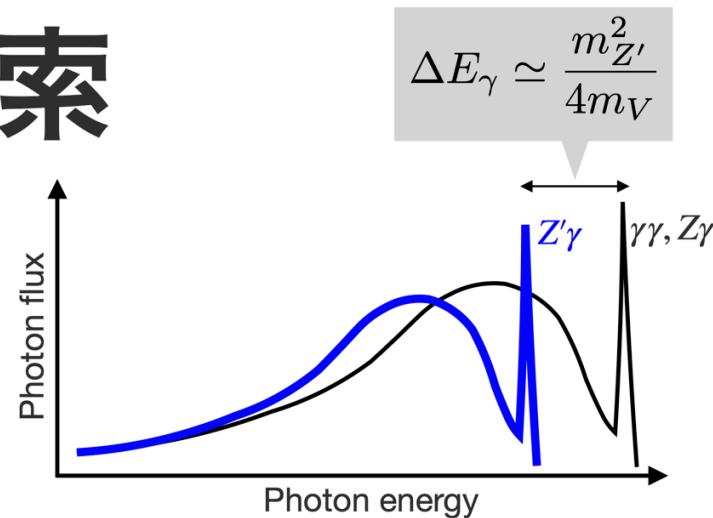
■ γ 線スペクトルで Z' 探索

- 電弱スピン 1 DM は Z' (2nd KK neutral vector)を伴う
- 新しい対消滅過程 $Z'\gamma$ が開ける

ゲージ結合のユニタリティ
 \downarrow
 興味のある領域: $m_V \lesssim m_{Z'} \lesssim 2m_V$

$Z'\gamma$ へのモードが開ける条件
 \downarrow
 ピーク識別条件: $\frac{\Delta E_\gamma}{m_V} \simeq \left(\frac{m_{Z'}}{2m_V} \right)^2 \gtrsim 0.1$





識別可能な二つのピークから
DM, Z' 質量の再構築が可能！

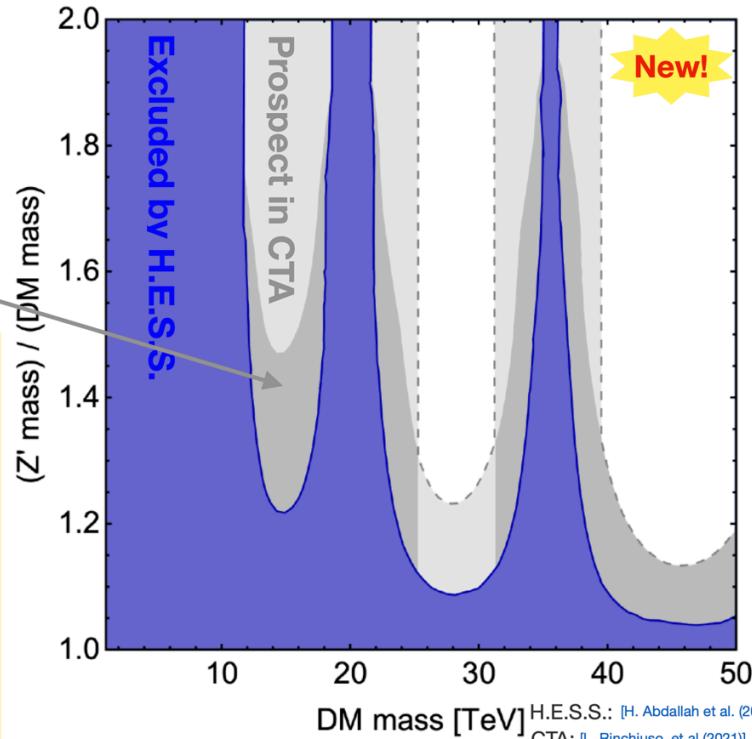
探索可能性

- 制限/探索可能領域はDM 密度 profile に強く依存
- 保守的な cored profile ($r_c = 5$ kpc)を選んでも
CTA 実験でダブルピークの探索が期待できる

Q. $Z'\gamma$ 由来のダブルピークは スピン 1 電弱 DMに特有か?

NO. $Z'\gamma$ モード自体は、 Z' を含む理論なら予言されうる
しかし、今回は 三つの增幅効果が重なり 特に探索しやすくなっている

- $\begin{cases} (1) Z' \text{ 結合の増幅} @ m_V \simeq m_{Z'} \\ (2) \text{EW 相互作用による Sommerfeld effect} \\ (3) \text{スピン 1 DM の } J = 2 \text{ の部分波の寄与} \end{cases}$
- $$C_{V-V+Z'} \simeq \frac{g_2}{\sqrt{\frac{m_{Z'}^2}{m_V^2}} - 1}$$



まとめ

電弱相互作用を持つ **スピニン 1** の 暗黒物質について
ガンマ線 単色ピーク の探索可能性を調べた

裏テーマ: 電弱 暗黒物質のスピンの識別

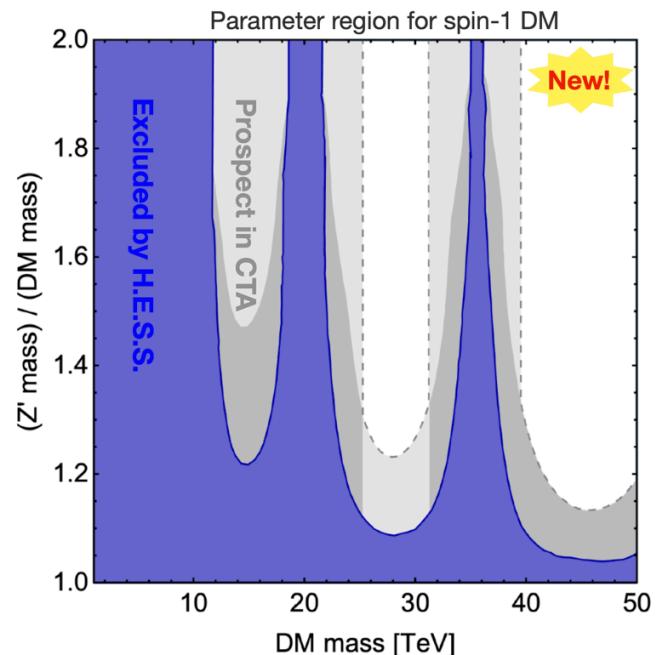
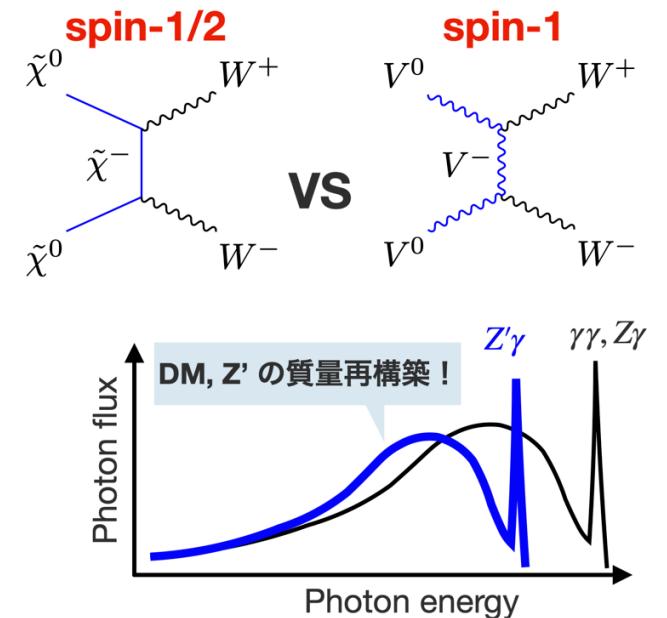
異なるスピン (**スピニン 1/2**)
同じ電弱相互作用 (SU(2)_L 三重項, Y=0) を持つ暗黒物質と予言を比較

DM DM → Xγ (X = γ, Z, Z')

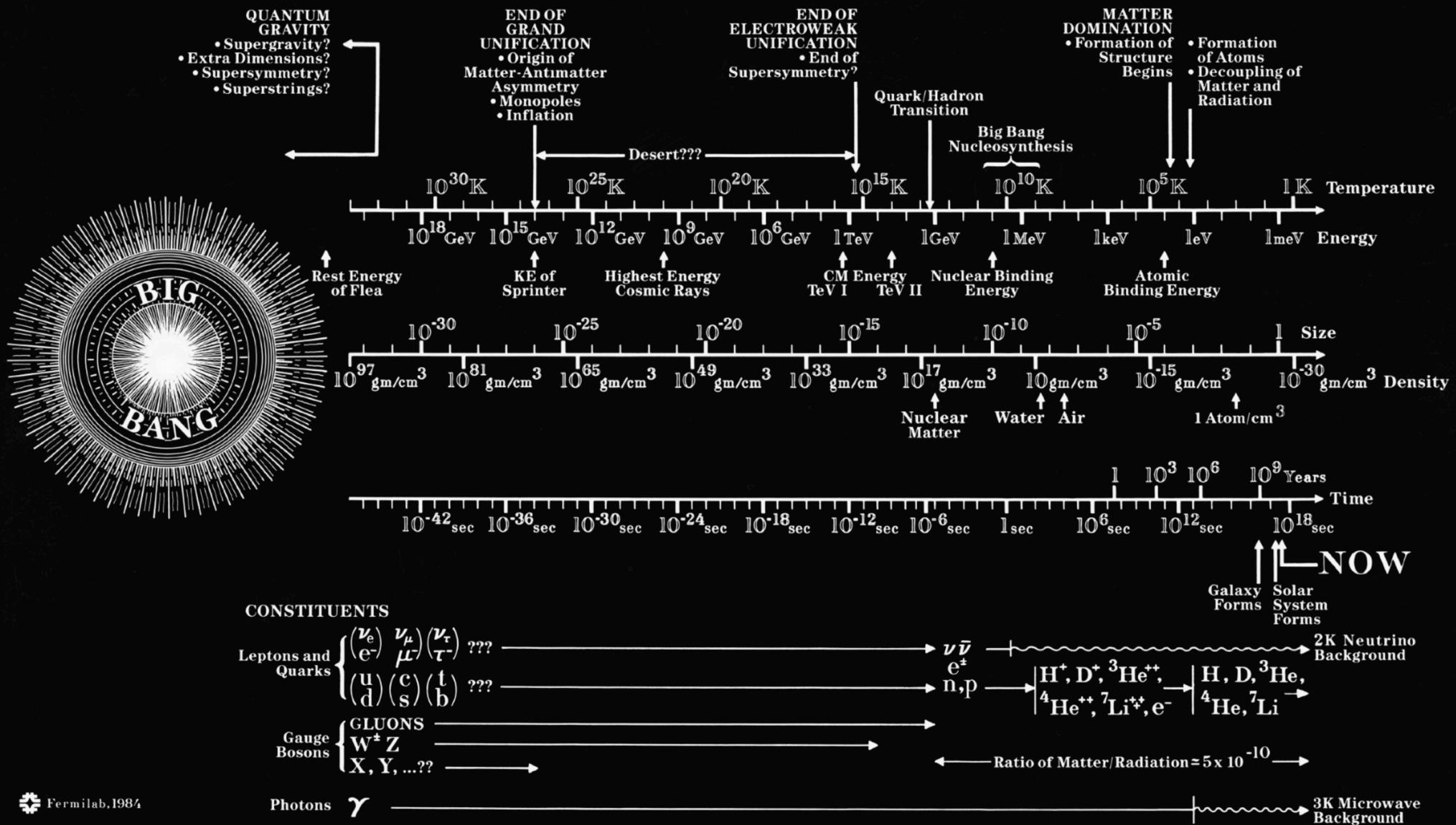
- スピニン 1 の DM は $J = 2$ の部分波も寄与
→ スピニン 1 の場合は $\gamma\gamma, Z\gamma$ モードが $\times \frac{38}{9}$ ($\simeq 4.22\dots$) の増幅
- スピニン 1 DM は $Z'\gamma$ モードが新たに追加
→ 識別できるダブルピークが CTA で探索可能
DM, Z' の質量再構築ができる

Future work

- 適切な DM 残存量を説明するスピニン 1 の電弱 DM 質量の決定
- 余剰次元理論のセットアップへのフィードバック



Backup



Backup: プロットを使った情報

DM 密度 profile

- Cusped profile

$$\rho_{\text{Einasto}}(r) \equiv \rho_s \exp \left[-\frac{2}{\alpha_s} \left(\left(\frac{r}{r_s} \right)^{\alpha_s} - 1 \right) \right]$$

- Cored profile

$$\rho(r) = \begin{cases} \rho_{\text{Einasto}}(r) & \text{for } r > r_c, \\ \rho_{\text{Einasto}}(r_c) & \text{for } r < r_c, \end{cases} \quad (r_c : \text{コア半径})$$

Profiles	Einasto	Einasto2
ρ_s [GeV cm $^{-3}$]	0.079	0.033
r_s [kpc]	20.0	28.4
α_s	0.17	0.17

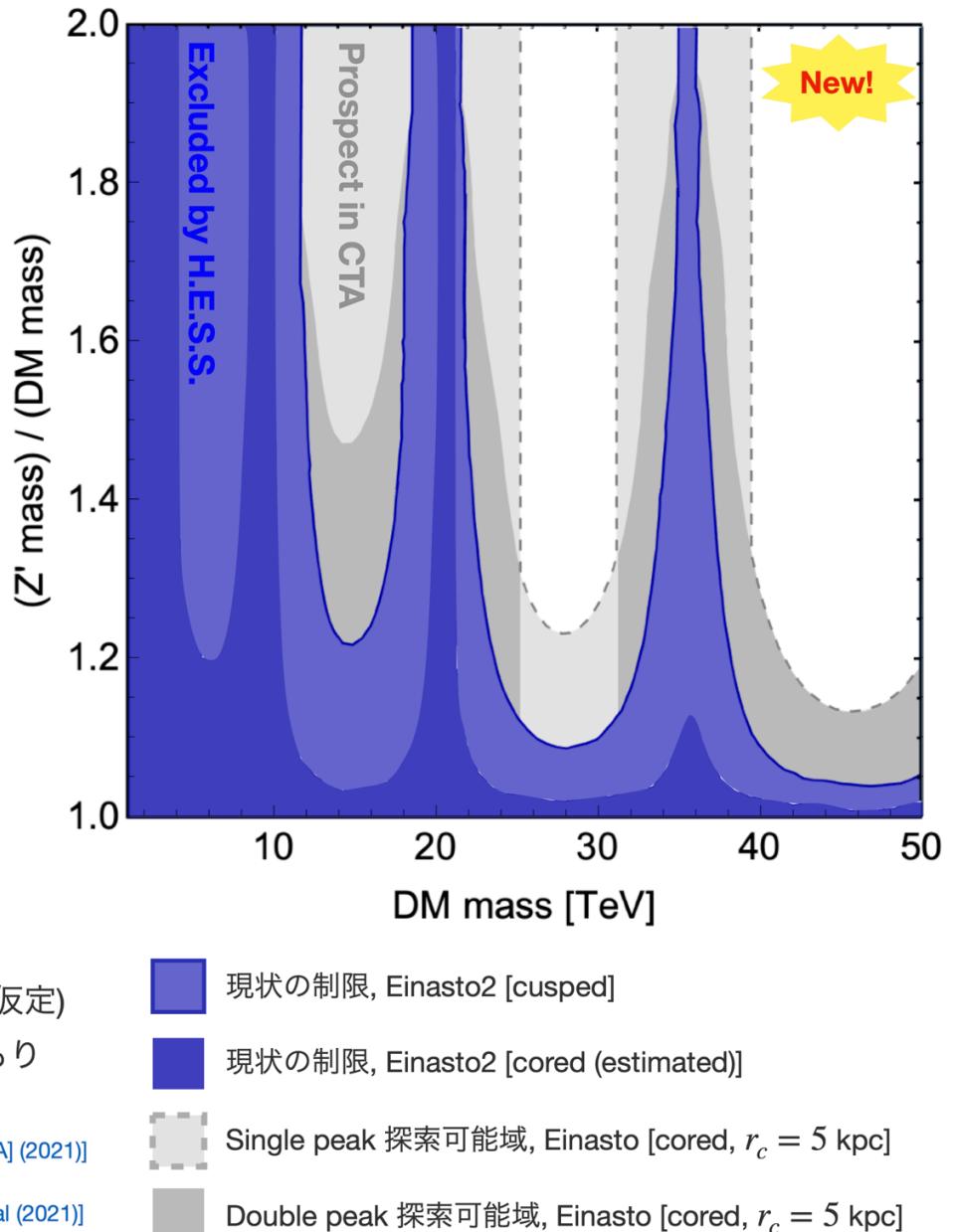
実験の制限・探索可能域

- H.E.S.S. [\[H. Abdallah et al. \[HESS\] \(2018\)\]](#)

H.E.S.S. の公式で出されている $\langle \sigma v \rangle$ の上限を使用 (cuspedを仮定)
cusped profile の上限を10倍し、cored profile の上限を見積もり

- Cherenkov Telescope Array (CTA) [\[A. Acharyya, et al \[CTA\] \(2021\)\]](#)

Wino DM に関する CTA の感度のスタディを使用 [\[L. Rinchiuso, et al \(2021\)\]](#)





Sommerfeld Enhancement



Two-body effective action

$$S_{\text{eff}} = \sum_{J,J_z} \int d^4R d^3r \Phi^{J,J_z\dagger}(R, \mathbf{r}) \cdot \left[\left(i\partial_{R^0} + \frac{\nabla_R^2}{4m_V} + \frac{\nabla_r^2}{m_V} \right) - \hat{V}(r) + i\frac{9}{2}\hat{\Gamma}^J \delta^3(\mathbf{r}) \right] \cdot \Phi^{J,J_z}(R, \mathbf{r})$$

- $Q = 0$ two-body states: $\Phi^{J,J_z}(R, \mathbf{r}) = \begin{pmatrix} \phi_C^{J,J_z}(R, \mathbf{r}) \\ \phi_N^{J,J_z}(R, \mathbf{r}) \end{pmatrix} \leftarrow V^- V^+ \quad \leftarrow V^0 V^0$

- Potential terms:

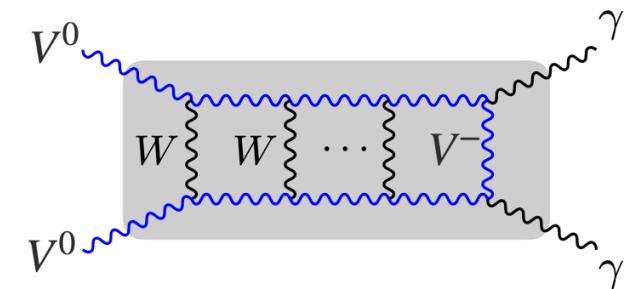
$$\hat{V}(r) = \begin{pmatrix} 2\delta m_V - \frac{\alpha_2 s_W^2}{r} - \frac{\alpha_2 c_W^2 e^{-m_Z r}}{r} & -\frac{\sqrt{2}\alpha_2 e^{-m_W r}}{r} \\ -\frac{\sqrt{2}\alpha_2 e^{-m_W r}}{r} & 0 \end{pmatrix}$$

α_2 : SU(2)L fine structure constant

$$\hat{\Gamma}_{\gamma\gamma}^{J=0} = \frac{2\pi\alpha_2^2}{3m_V^2} \begin{pmatrix} s_W^4 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$$

$$\hat{\Gamma}_{\gamma\gamma}^{J=2} = \frac{32\pi\alpha_2^2}{45m_V^2} \begin{pmatrix} s_W^4 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}$$

- EW int. are imprinted in the potential btw V-particles
- Off-diagonal elements (induced by W) mix ϕ_C & ϕ_N
- DM can annihilate into γ with large cross section!



Annihilation Cross Section

$$\langle \sigma v_{\text{rel}} \rangle_{XX'} = 2 \sum_{\alpha, \beta} \sum_{J, J_z} (\Gamma_{XX'}^J)_{\alpha \beta} d_{2\alpha}(E) d_{2\beta}^*(E)$$

$$\begin{pmatrix} r_{Z'} \equiv \frac{m_{Z'}^2}{4m_V^2} \\ g_{Z'} \equiv \frac{g_W}{\sqrt{\frac{m_{Z'}^2}{m_V^2} - 1}} \end{pmatrix}$$

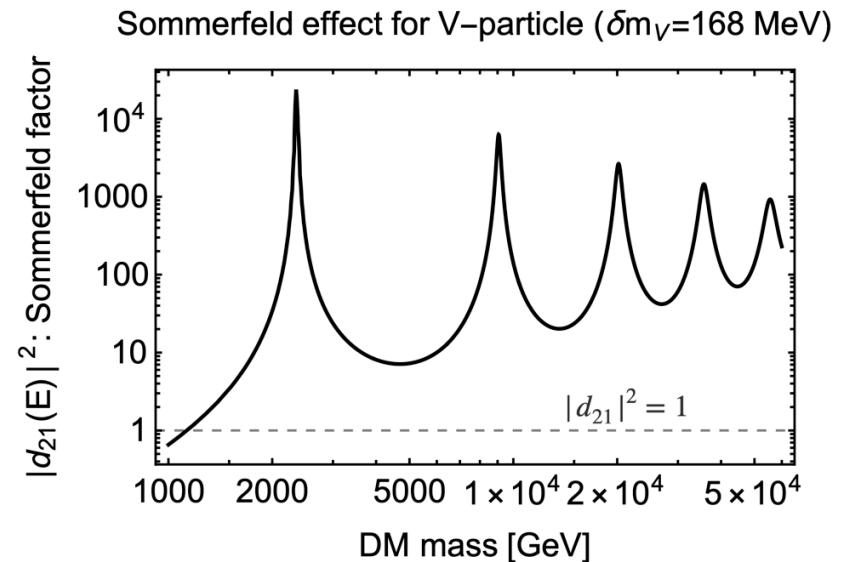
- Annihilation cross sections are expressed in $\Gamma_{XX'} (XX' = \gamma\gamma, Z\gamma, Z'\gamma)$

$$\begin{aligned} \hat{\Gamma}_{\gamma\gamma}^{J=0} &= \frac{2\pi\alpha_2^2}{3m_V^2} \begin{pmatrix} s_W^4 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}, & \hat{\Gamma}_{Z\gamma}^{J=0} &= \frac{2\pi\alpha_2^2}{3m_V^2} \begin{pmatrix} 2c_W^2s_W^2 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}, & \hat{\Gamma}_{Z'\gamma}^{J=0} &= \frac{1}{27} \frac{\alpha_2 g_{Z'}^2}{m_V^2} (1 - r_{Z'}) (3 - 2r_{Z'})^2 \begin{pmatrix} s_W^2 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}, \\ \hat{\Gamma}_{\gamma\gamma}^{J=2} &= \frac{32\pi\alpha_2^2}{45m_V^2} \begin{pmatrix} s_W^4 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}, & \hat{\Gamma}_{Z\gamma}^{J=2} &= \frac{32\pi\alpha_2^2}{45m_V^2} \begin{pmatrix} 2c_W^2s_W^2 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}, & \hat{\Gamma}_{Z'\gamma}^{J=2} &= \frac{8}{135} \frac{\alpha_2 g_{Z'}^2}{m_V^2} (1 - r_{Z'}) (6 + 3r_{Z'} + r_{Z'}^2) \begin{pmatrix} s_W^2 & 0 \\ 0 & 0 \end{pmatrix}, \end{aligned}$$

Sommerfeld enhancement factor

$$d_{\alpha\beta}(E) \quad (\alpha, \beta = 1, 2) \quad E \simeq \frac{mv_{\text{rel}}^2}{4} : \text{NR kinetic energy}$$

- Solving Schrödinger equation numerically
- $|d_{21}|^2$ is enhanced by several orders (especially around the resonance masses)





NLO correction for Wino DM



NLO correction for potential

[M. Beneke, R. Szafron, K. Urban (2020)]

【手法】

$\chi\chi \rightarrow \chi\chi$ の振幅を運動量空間で計算

実空間に戻ってポテンシャル $V(r)$ を求める

【結果】

Tree-level の結果と 1-loop の結果を比較

共鳴質量が 3 % ほどずれる

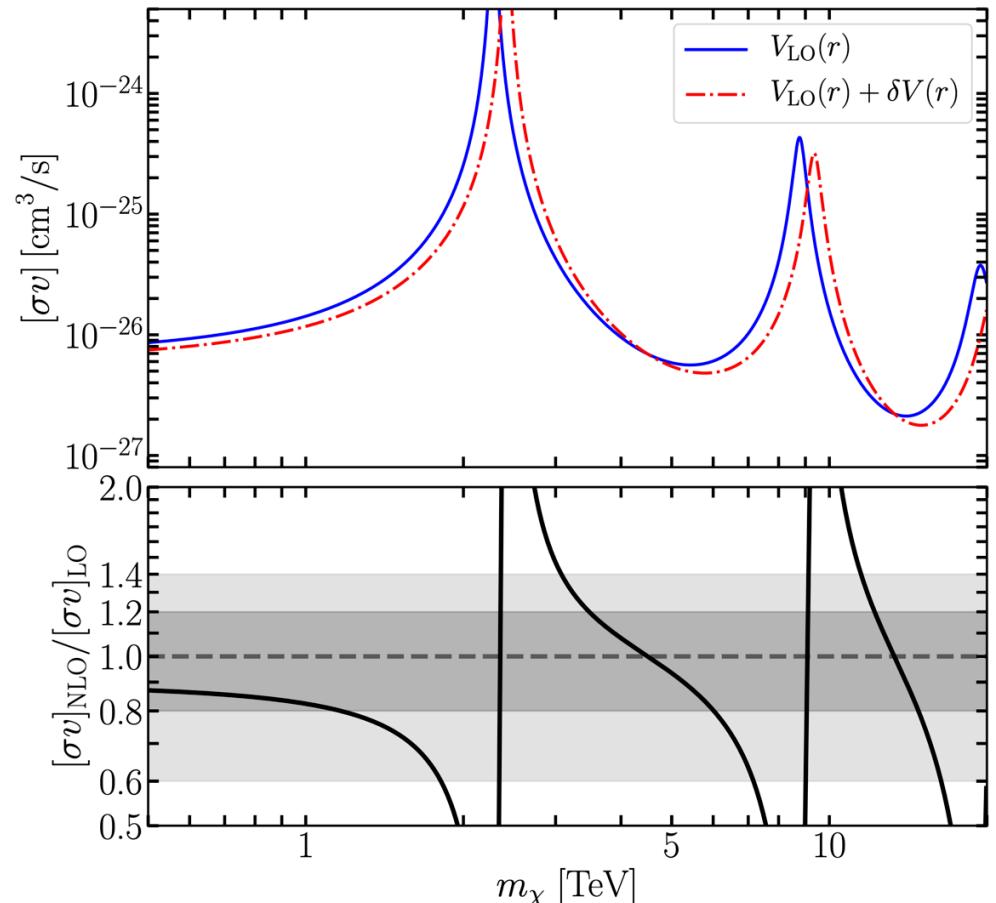
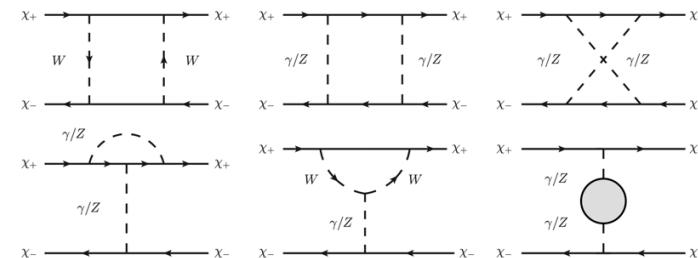
→ 共鳴質量付近では、対消滅断面積の
予言値が大きくずれる

DM 残存量を説明する pure Wino DM の

質量は共鳴質量付近 ($m_{\text{DM}} \simeq 3 \text{ TeV}$)

→ 理論精度をあげた予言値導出が重要

1-loop diagrams





Our Model (more details)



Model

BSM Lagrangian

$$\begin{aligned}\mathcal{L} \supset & -\frac{1}{4}B_{\mu\nu}B^{\mu\nu} - \sum_{j=0}^2 \sum_{a=1}^3 \frac{1}{4}W_{j\mu\nu}^a W_j^{a\mu\nu} \\ & + D_\mu H^\dagger D^\mu H + \frac{1}{2}\text{tr}D_\mu\Phi_1^\dagger D_\mu\Phi_1 + \frac{1}{2}\text{tr}D_\mu\Phi_2^\dagger D_\mu\Phi_2 \\ & - V_{\text{scalar}},\end{aligned}$$

Scalar potential

$$\begin{aligned}V_{\text{scalar}} = & m^2 H^\dagger H + m_\Phi^2 \text{tr}(\Phi_1^\dagger \Phi_1) + m_\Phi^2 \text{tr}(\Phi_2^\dagger \Phi_2) \\ & + \lambda(H^\dagger H)^2 + \lambda_\Phi \left(\text{tr}(\Phi_1^\dagger \Phi_1) \right)^2 + \lambda_\Phi \left(\text{tr}(\Phi_2^\dagger \Phi_2) \right)^2 \\ & + \lambda_{h\Phi} H^\dagger H \text{tr}(\Phi_1^\dagger \Phi_1) + \lambda_{h\Phi} H^\dagger H \text{tr}(\Phi_2^\dagger \Phi_2) + \lambda_{12} \text{tr}(\Phi_1^\dagger \Phi_1) \text{tr}(\Phi_2^\dagger \Phi_2).\end{aligned}$$

Mass matrix: gauge sector

$$\mathcal{L} \supset \begin{pmatrix} W_{0\mu}^+ & W_{1\mu}^+ & W_{2\mu}^+ \end{pmatrix} \mathcal{M}_C^2 \begin{pmatrix} W_0^{-\mu} \\ W_1^{-\mu} \\ W_2^{-\mu} \end{pmatrix} + \frac{1}{2} \begin{pmatrix} W_{0\mu}^3 & W_{1\mu}^3 & W_{2\mu}^3 & B_\mu \end{pmatrix} \mathcal{M}_N^2 \begin{pmatrix} W_0^{3\mu} \\ W_1^{3\mu} \\ W_2^{3\mu} \\ B^\mu \end{pmatrix}$$

Charged vector

$$\mathcal{M}_C^2 = \frac{1}{4} \begin{pmatrix} g_0^2 v_\Phi^2 & -g_0 g_1 v_\Phi^2 & 0 \\ -g_0 g_1 v_\Phi^2 & g_1^2 (v^2 + 2v_\Phi^2) & -g_1 g_0 v_\Phi^2 \\ 0 & -g_1 g_0 v_\Phi^2 & g_0^2 v_\Phi^2 \end{pmatrix},$$

Neutral vector

$$\mathcal{M}_N^2 = \frac{1}{4} \begin{pmatrix} g_0^2 v_\Phi^2 & -g_0 g_1 v_\Phi^2 & 0 & 0 \\ -g_0 g_1 v_\Phi^2 & g_1^2 (v^2 + 2v_\Phi^2) & -g_1 g_0 v_\Phi^2 & -g_1 g' v^2 \\ 0 & -g_1 g_0 v_\Phi^2 & g_0^2 v_\Phi^2 & 0 \\ 0 & -g_1 g' v^2 & 0 & g'^2 v^2 \end{pmatrix}.$$

Mass matrix: scalar sector

$$\mathcal{L} \supset \frac{1}{2} \begin{pmatrix} \sigma_3 & \sigma_1 & \sigma_2 \end{pmatrix} \begin{pmatrix} 2\lambda v^2 & 2vv_\Phi \lambda_{h\Phi} & 2vv_\Phi \lambda_{h\Phi} \\ 2vv_\Phi \lambda_{h\Phi} & 8v_\Phi^2 \lambda_\Phi & 4v_\Phi^2 \lambda_{12} \\ 2vv_\Phi \lambda_{h\Phi} & 4v_\Phi^2 \lambda_{12} & 8v_\Phi^2 \lambda_\Phi \end{pmatrix} \begin{pmatrix} \sigma_3 \\ \sigma_1 \\ \sigma_2 \end{pmatrix}.$$

Quartic couplings

$$\lambda = \frac{m_h^2 \cos^2 \phi_h + m_{h'}^2 \sin^2 \phi_h}{2v^2},$$

$$\lambda_{h\Phi} = - \frac{\sin \phi_h \cos \phi_h}{2\sqrt{2}vv_\Phi} (m_{h'}^2 - m_h^2),$$

$$\lambda_\Phi = \frac{m_h^2 \sin^2 \phi_h + m_{h'}^2 \cos^2 \phi_h + m_{h_D}^2}{16v_\Phi^2},$$

$$\lambda_{12} = \frac{m_h^2 \sin^2 \phi_h + m_{h'}^2 \cos^2 \phi_h - m_{h_D}^2}{8v_\Phi^2}.$$

Bounded from Below(BFB) conditions

BFB conditions in our model

$$\lambda > 0,$$

$$\lambda_\Phi > 0,$$

$$\lambda_\Phi + \frac{\lambda_{12}}{2} > 0,$$

$$\frac{\lambda_{h\Phi}}{2} + \sqrt{\lambda\lambda_\Phi} > 0,$$

$$\begin{cases} \lambda_{h\Phi} \geq 0, \\ \text{or} \\ \lambda_{h\Phi} < 0 \end{cases}$$

$$\text{and } \lambda \left(\lambda_\Phi + \frac{\lambda_{12}}{2} \right) - \frac{\lambda_{h\Phi}^2}{2} > 0.$$

※ We find **all the BFB conditions are automatically satisfied by using the the expressions of scalar quartic couplings**

$$\lambda = \frac{m_h^2 \cos^2 \phi_h + m_{h'}^2 \sin^2 \phi_h}{2v^2},$$

$$\lambda_\Phi = \frac{m_h^2 \sin^2 \phi_h + m_{h'}^2 \cos^2 \phi_h + m_{h_D}^2}{16v_\Phi^2},$$

$$\lambda_{h\Phi} = -\frac{\sin \phi_h \cos \phi_h}{2\sqrt{2}vv_\Phi} (m_{h'}^2 - m_h^2),$$

$$\lambda_{12} = \frac{m_h^2 \sin^2 \phi_h + m_{h'}^2 \cos^2 \phi_h - m_{h_D}^2}{8v_\Phi^2}.$$

Unitarity bound for scalar quartic couplings

Perturbative unitarity bounds

$$|\lambda| \leq 4\pi,$$

$$|\lambda_{h\Phi}| \leq 4\pi,$$

$$|\lambda_\Phi| \leq \pi,$$

$$|\lambda_{12}| \leq 2\pi,$$

$$|3\lambda_\Phi - \lambda_{12}| \leq \pi,$$

$$\left| 3\lambda + 4(3\lambda_\Phi + \lambda_{12}) \pm \sqrt{(3\lambda - 4(3\lambda_\Phi + \lambda_{12}))^2 + 32\lambda_{h\Phi}^2} \right| \leq 8\pi.$$

→ $|\lambda| = \left| \frac{m_h^2 \cos^2 \phi_h + m_{h'}^2 \sin^2 \phi_h}{2v^2} \right| \lesssim \frac{4}{3}\pi$ in the limit of $\lambda \gg \lambda_{h\Phi}, \lambda_\Phi, \lambda_{12}$

For $m_{h'} \gg v$, we need small ϕ_h to realize $\lambda \simeq \mathcal{O}(1)$

→ Perturbative unitarity bounds give a viable constraint on ϕ_h

Z₂ parity from Exchange symme.

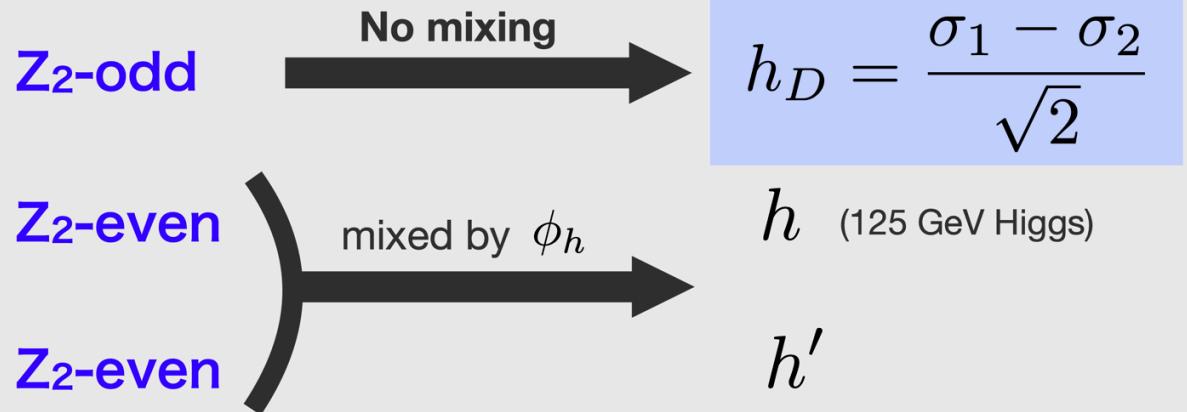
Exchange trans. (after SSB)

$$\sigma_1 \leftrightarrow \sigma_2, \quad W_{0\mu}^a \leftrightarrow W_{2\mu}^a$$

$$\left[\Phi_j = \begin{pmatrix} \frac{v_\Phi + \sigma_j + i\pi_j^0}{\sqrt{2}} & i\pi_j^+ \\ i\pi_j^- & \frac{v_\Phi + \sigma_j - i\pi_j^0}{\sqrt{2}} \end{pmatrix} \quad (j=1, 2) \quad H = \begin{pmatrix} i\pi_3^+ \\ \frac{v + \sigma_3 - i\pi_3^0}{\sqrt{2}} \end{pmatrix} \right]$$

eg. Trans. of neutral scalar: $\{\sigma_1, \sigma_2, \sigma_3\}$

$$\left\{ \begin{array}{lcl} \frac{\sigma_1 - \sigma_2}{\sqrt{2}} & \mapsto & -\frac{\sigma_1 - \sigma_2}{\sqrt{2}} \\ \\ \frac{\sigma_1 + \sigma_2}{\sqrt{2}} & \mapsto & +\frac{\sigma_1 + \sigma_2}{\sqrt{2}} \\ \\ \sigma_3 & \mapsto & +\sigma_3 \end{array} \right.$$



States are classified by **Z₂ Parity!**

Exchange symmetry $SU(2)_0 \leftrightarrow SU(2)_2 \rightarrow$ **Z₂ Parity for physical states**



DM Phenomenology



Parameters

$[g_0 : \text{gauge coupling for } \text{SU}(2)_0 \text{ & } \text{SU}(2)_2]$
 $[g_1 : \text{gauge coupling for } \text{SU}(2)_1]$

$$g_0, \quad g_1, \quad g', \quad v, \quad v_\Phi,$$

(scalar quartic couplings) $\times 4$

$$e, \quad G_F, \quad m_Z, \quad m_V, \quad m_{Z'}$$

$$m_h, \quad m_{h'}, \quad m_{h_D}, \quad \phi_h$$

$\phi_h : \text{mixing angle of}$
 $Z_2\text{-even scalars}$

$\sim v_\Phi$ (TeV scale)

Free parameters

$$\{ m_V, \quad m_{Z'}, \quad m_{h'}, \quad m_{h_D}, \quad \phi_h \}$$

Characterize vector sector

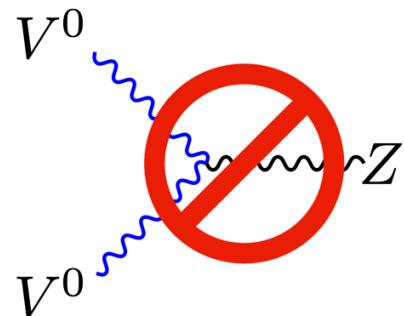
Characterize scalar sector

Scattering Process: DM direct detection

Direct detection

DM-nucleus scattering is searched, but no significant excess now
→ Severe constraint on DM-Z coupling & DM-Higgs coupling

Z-exchange process

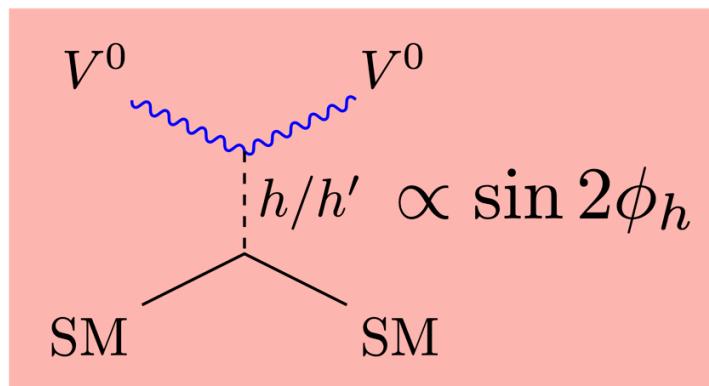


Neutral boson triple coupling is forbidden

(:: non-Abelian extension)

→ No Z-exchange in scattering process!

Higgs-exchange process



Mixing angle ϕ_h tunes the scattering process

→ direct detection bounds give upper bound on ϕ_h

For sufficiently small ϕ_h ,

σ_{scat} is dominated by 1-loop EW processes

Thermal relic region

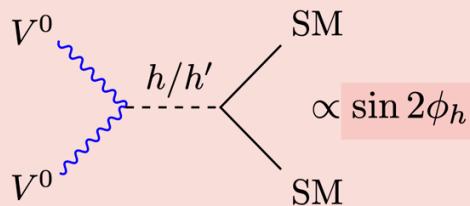
ϕ_h : mixing angle btw h and h'

White region:

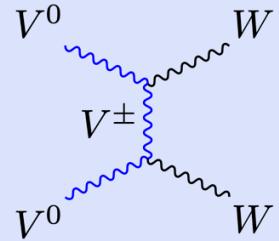
$\Omega h^2 \sim 0.12$ is achieved by adjusting ϕ_h

Annihilation Channel

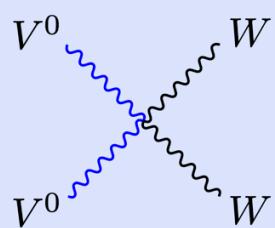
- Higgs channels



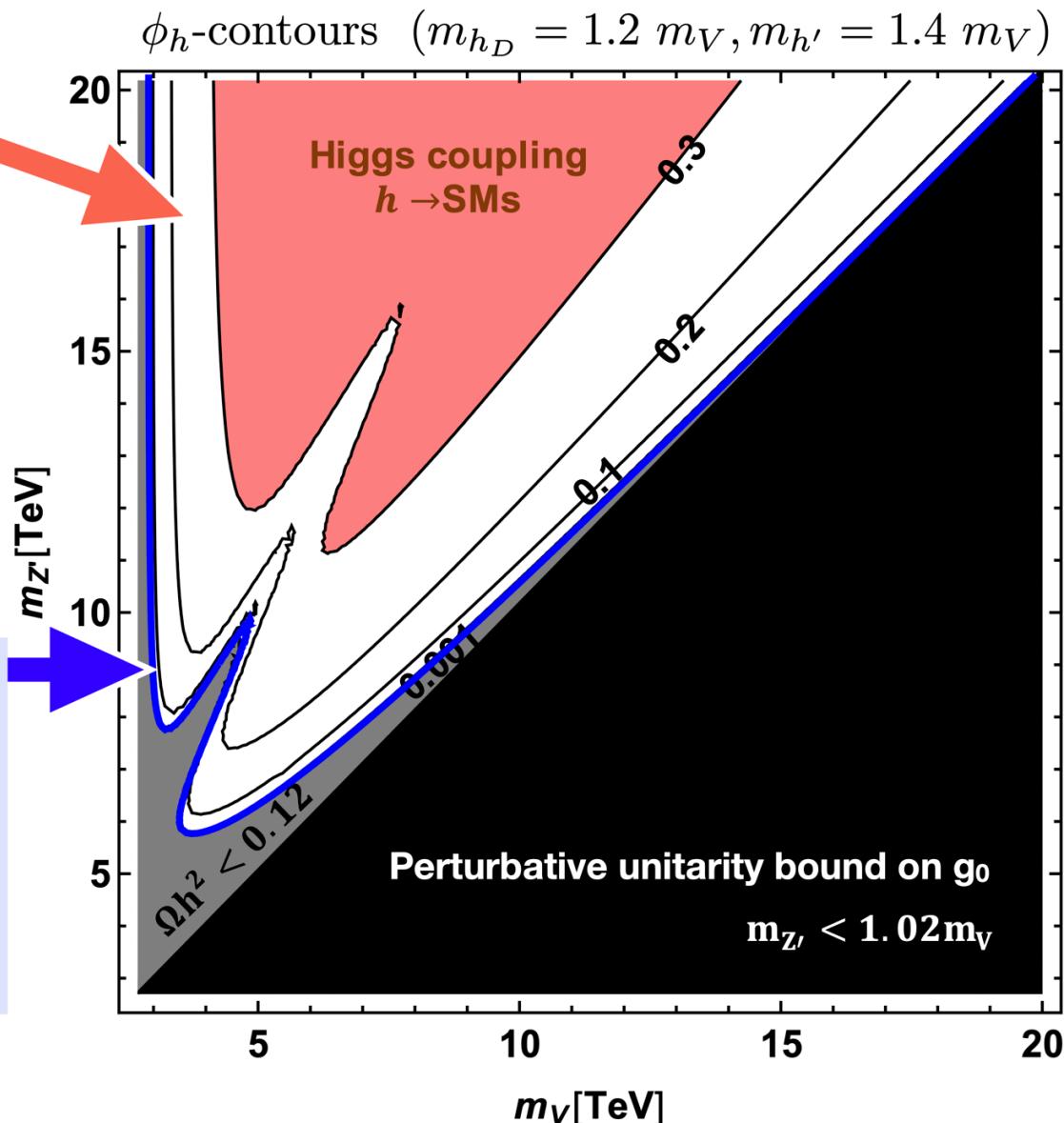
- EW channels



EW channel only

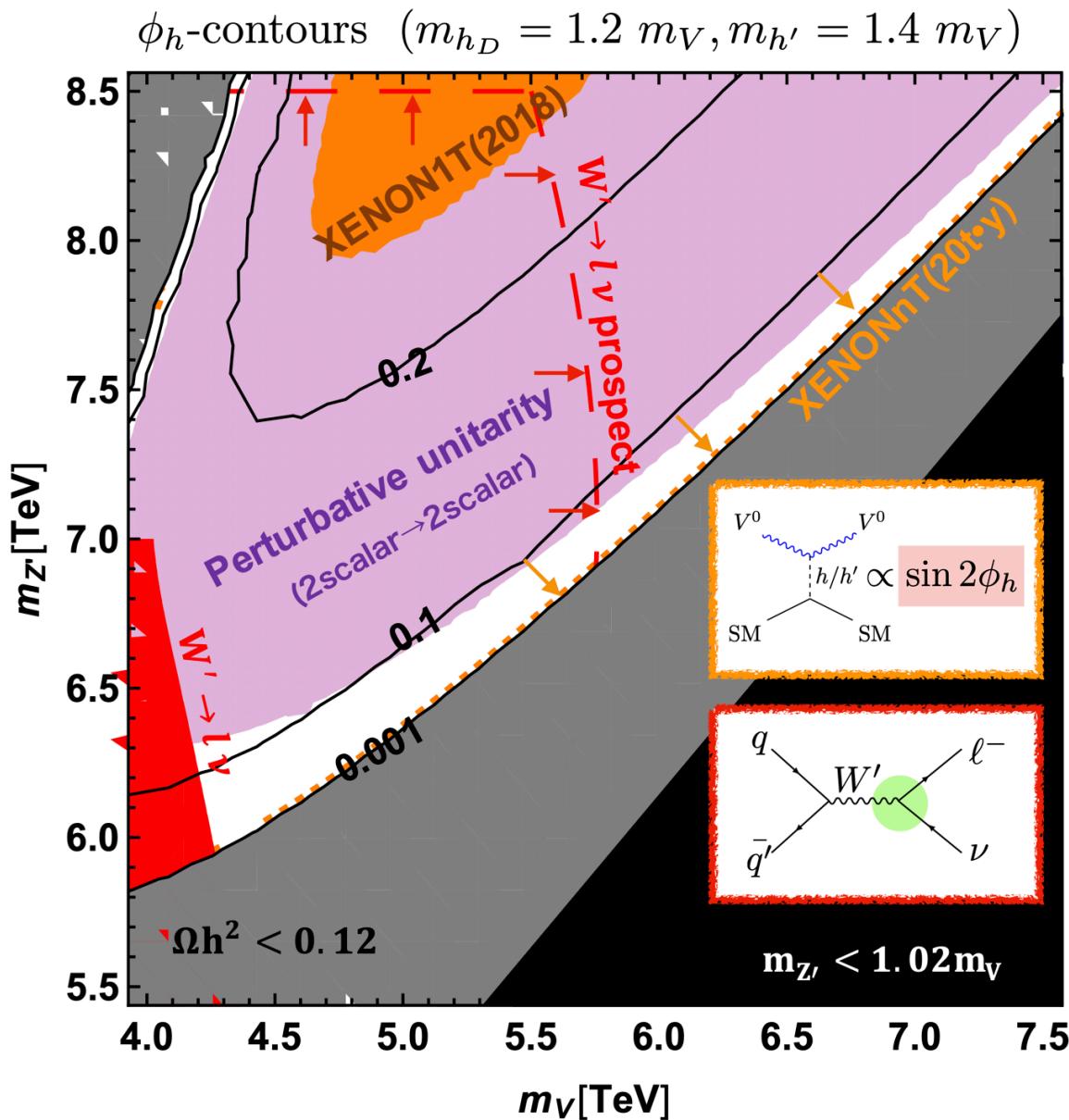


(+ many other channels...)



* We need to include Sommerfeld effect in evaluation of Ωh^2 [Future work is ongoing]

Constraints

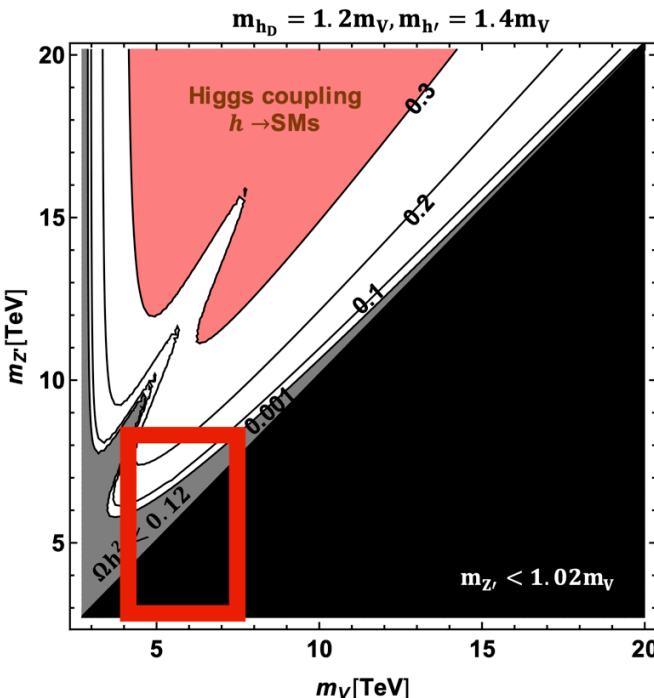


LHC13TeV 139 fb^{-1}

[ATLAS Collaboration(2019)] (* No bound for $m_{W'} > 7 \text{ TeV}$)



HL-LHC14TeV 3000 fb^{-1} [ATL-PHYS-PUB-2018-044(2018)]



- Perturbative unitarity bounds

(2scalar \rightarrow 2scalar scattering)

$$\rightarrow \phi_h \lesssim 0.1$$

- Direct detection(XENON1T/nT)

\rightarrow probe Higgs contribution
to DM annihilation process

- W' search by LHC/HL-LHC

\rightarrow probe thermal relic scenario
even if $\phi_h \simeq 0$



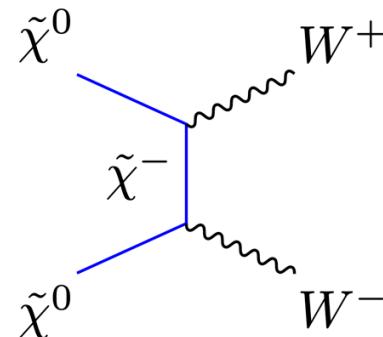
Vector DM from Extra-dimension



Model of EW interacting DM

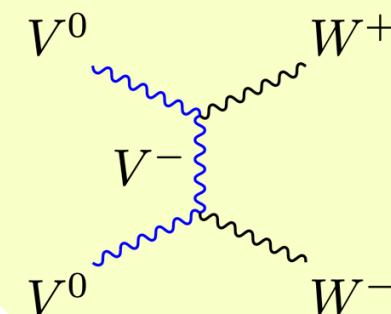
Supersymmetric DM model	Model w/ Extra-dimension
<ul style="list-style-type: none">SM particles + SUSY partnersR-parity guarantees DM stabilityMany DM candidates<ul style="list-style-type: none">Wino DM	<ul style="list-style-type: none">SM particles + Kaluza-Klein (KK) towersKK-parity guarantees DM stabilityBulk action + Boundary Localized action<ul style="list-style-type: none">→ 1st KK W_μ^3 can be Lightest KK Particle

SU(2)_L triplet spin-1/2



VS

SU(2)_L triplet spin-1



Next pages: Review on Spin-1 DM from Extra-dim.

■ Spin-1 DM form extra-dimension

Universal Extra Dimension (UED) model

- SM particles = 5 dimensional fields propagating in a flat extra dimension
- Orbifold compactification: S_1/Z_2 ($y \mapsto -y$)
 - Chiral fermion
 - Switch off massless scalar (associated w/ 5th component of gauge fields)
 - Kaluza-Klein (KK) parity → Lightest KK-odd particle can be stable DM candidate!

How to study UED model?

- Minimal UED approach

Boundary Localized Terms (BLTs) are induced through renormalization group evolution
- Effective Field Theory approach

Extra-dimensional theory is Non-renormalizable
→ Introduce BLTs that respect all the symmetries (coefficients = free parameters)

What is the physical effects of **Boundary Localized Terms**?

BLTs and mass spectrum

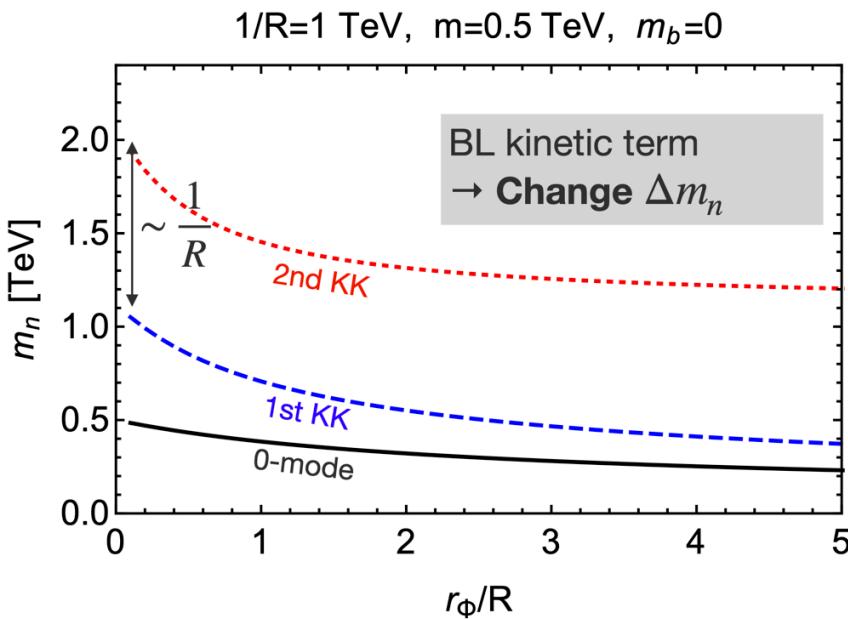
[T. Flacke, A. Menon, D. J. Phalen (2009)]

Scalar theory

$$S = \frac{1}{2} \int d^5x (\partial^M \Phi \partial_M \Phi - m^2 \Phi^2), \quad \begin{cases} r_\Phi : \text{BL kinetic term [mass]}^{-1} \\ m_b^2 : \text{BL mass square [mass]} \end{cases}$$

$$+ \frac{1}{2} \int d^5x (r_\Phi \partial^\mu \Phi \partial_\mu \Phi - m_b^2 \Phi^2) [\delta(y) + \delta(y - \pi R)],$$

- BLTs affects Boundary Condition @ $y = 0, \pi R$
→ **Modify Quantization condition of KK spectrum:** m_n



Boundary conditions

$$\begin{cases} (\partial_5 - r_\Phi \square - m_b^2) \Phi|_{y=0} = 0 \\ (\partial_5 + r_\Phi \square + m_b^2) \Phi|_{y=\pi R} = 0 \end{cases}$$



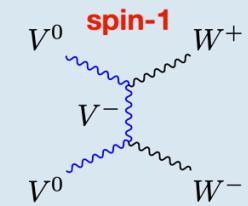
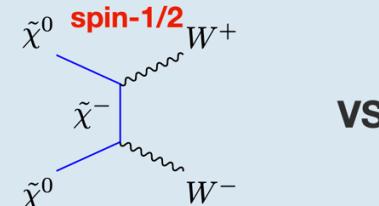
$$\frac{r_\Phi m_n^2 - m_b^2}{\sqrt{m_n^2 - m^2}} = \begin{cases} -\tan\left(\frac{\pi R}{2}\sqrt{m_n^2 - m^2}\right) \\ \cot\left(\frac{\pi R}{2}\sqrt{m_n^2 - m^2}\right) \end{cases}$$

BLTs = rich possibilities of KK mass spectrum

→ 1st KK W_μ^3 can be Lightest KK Particle

= **SU(2)_L triplet spin-1 DM**

Reveal nature of SU(2)_L triplet spin-1 DM w/ general mass spectrum!



vs



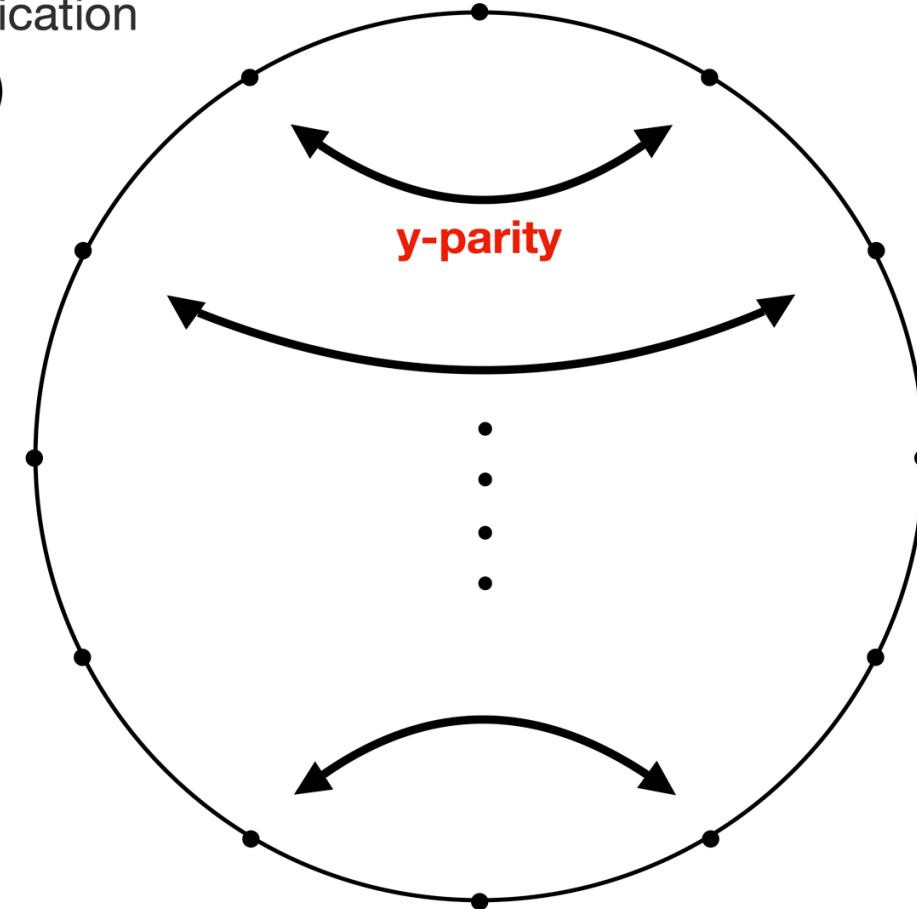
Deconstructing dimension

[N. Arkani-Hamed, A. G. Cohen, H. Georgi (2001)]

5 dim. SU(2) gauge theory
w/ Orbifold compactification

S_1/Z_2 ($y \mapsto -y$)

$y = 0$ (Fixed point)

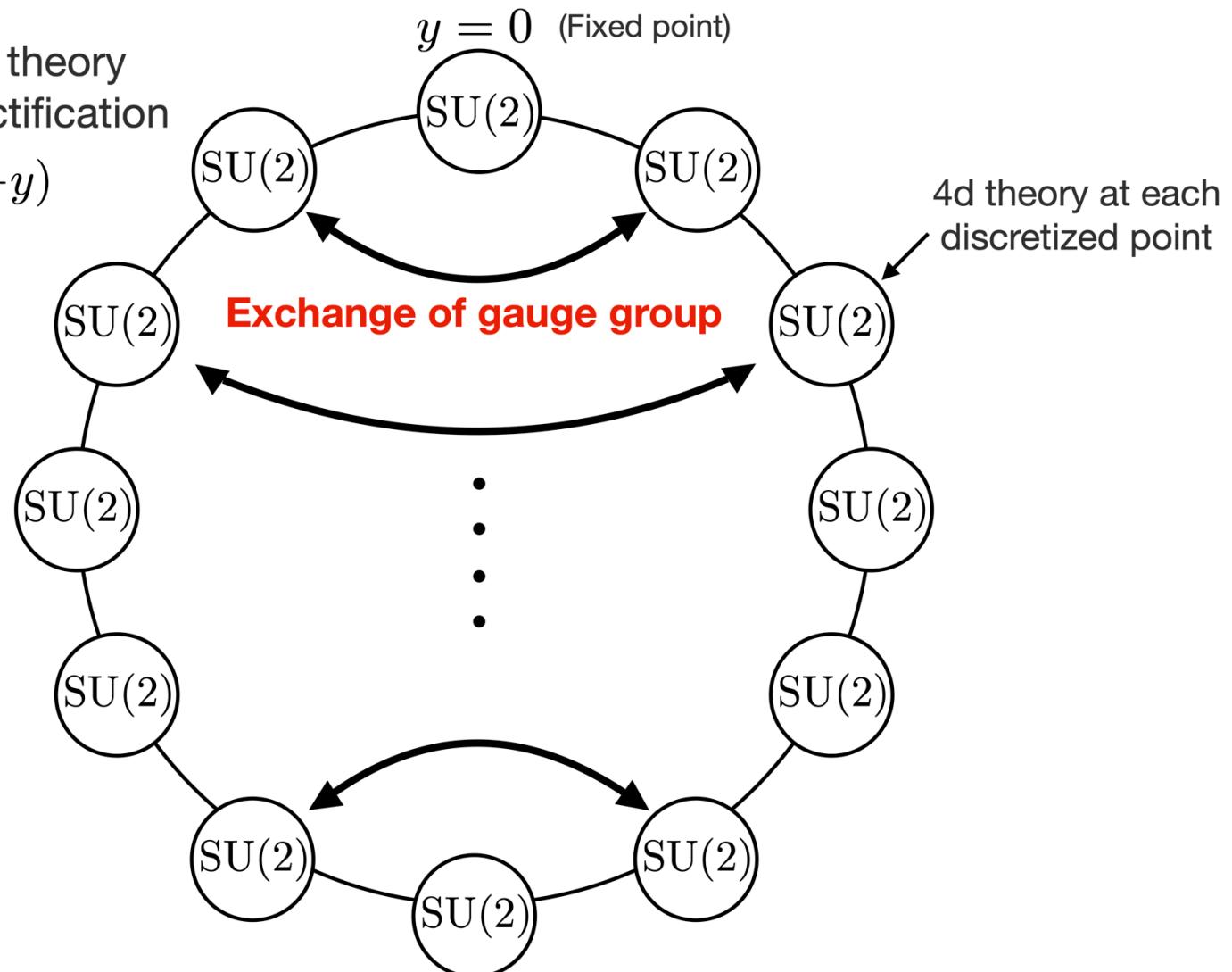


■ Deconstructing dimension

[N. Arkani-Hamed, A. G. Cohen, H. Georgi (2001)]

5 dim. SU(2) gauge theory
w/ Orbifold compactification

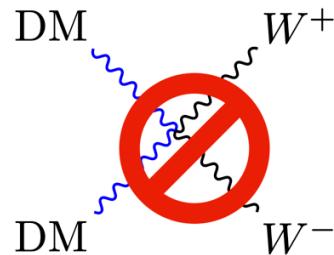
S_1/Z_2 ($y \mapsto -y$)



4 dim. picture:

Many direct products of SU(2)s
w/ exchange symmetry of gauge groups!

Abelian Extension with Exchange Symmetry



CAUTION!



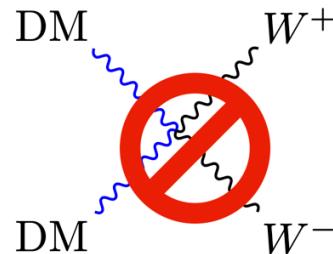
Stable neutral vector **CANNOT** have
Non-Abelian EW couplings

Abelian Extension with Exchange Symmetry(1/2)

We can also construct the Abelian extension spin-1 DM model with exchange symmetry

$$SU(2)_L \otimes U(1)_0 \otimes U(1)_1 \otimes U(1)_2$$

Exchange Symmetry



Stable neutral vector CANNOT have Non-Abelian EW couplings

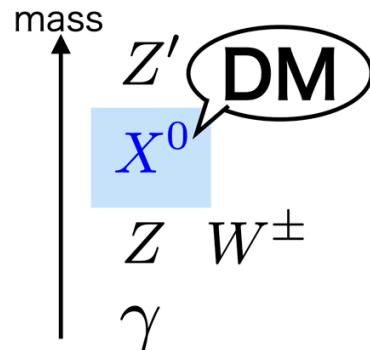
Model

$$\begin{aligned} \mathcal{L} \supset & -\frac{1}{4}(B^0)_{\mu\nu}(B^0)^{\mu\nu} - \frac{1}{4}(B^1)_{\mu\nu}(B^1)^{\mu\nu} - \frac{1}{4}(B^2)_{\mu\nu}(B^2)^{\mu\nu} \\ & + \frac{1}{2}\epsilon_{01}[(B^0)^{\mu\nu} + (B^2)^{\mu\nu}](B^1)^{\mu\nu} + \frac{1}{2}\epsilon_{02}(B^0)_{\mu\nu}(B^2)^{\mu\nu} \\ & + (D_\mu\Phi_1)^\dagger(D^\mu\Phi_1) + (D_\mu\Phi_2)^\dagger(D^\mu\Phi_2) + (D_\mu H)^\dagger(D^\mu H) \\ & - (\text{Scalar Potential}) \end{aligned}$$

Spectrum

$$X^0 = \frac{B_\mu^0 - B_\mu^2}{\sqrt{2}}$$

(Z_2 -odd neutral vector)



※ We have kinetic mixing terms(2nd line) in this Abelian extension model

field	spin	SU(3) _C	SU(2) _L	U(1) ₀	U(1) ₁	U(1) ₂
q_L	$\frac{1}{2}$	3	2	0	$\frac{1}{6}$	0
u_R	$\frac{1}{2}$	3	1	0	$\frac{2}{3}$	0
d_R	$\frac{1}{2}$	3	1	0	$-\frac{1}{3}$	0
ℓ_L	$\frac{1}{2}$	1	2	0	$-\frac{1}{2}$	0
e_R	$\frac{1}{2}$	1	1	0	-1	0
H	0	1	2	0	$\frac{1}{2}$	0
Φ_1	0	1	1	y_1^0	y_1^1	0
Φ_2	0	1	1	0	y_1^1	y_1^0
		W_μ^a	B_μ^0	B_μ^1	B_μ^2	

Abelian Extension with Exchange Symmetry(2/2)

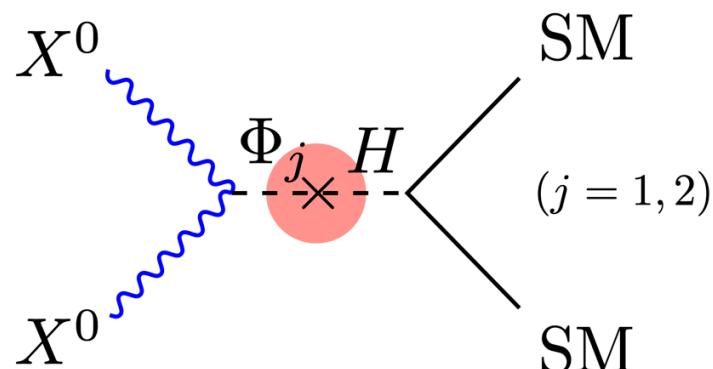
NOTE: Exchange symmetry forbids X^0 to have EW interactions

- X^0 do not appear in the $SU(2)_L$ neutral vector state

$$W_\mu^3 = \#A_\mu + \#Z_\mu + \#Z'_\mu \quad \leftarrow \text{No } X^0 \text{ states}$$

- X^0 do not mix with the other neutral vectors (Z_2 -even) even through the kinetic mixing terms

$$\mathcal{L}_{\text{kinetic}} = \frac{\epsilon_{02}}{4} X_{\mu\nu} X^{\mu\nu} + (\text{mixing btw } Z_2\text{-even vectors})$$
$$X_{\mu\nu} = \partial_\mu X_\nu^0 - \partial_\nu X_\mu^0$$



DM relies on the Higgs mixing
in the annihilation process
→ **Strict bound from direct detection**

(That is why we choose
the non-Abelian extension approach!)



Thank you!

質問・コメント・議論 大歓迎です

remo/Slack/mail いずれでも対応可能です

2021.09.09 Motoko FUJIWARA